

「外国人留学生の  
就職の現状と多様化について考える」  
事例報告 < 日本語学校 >

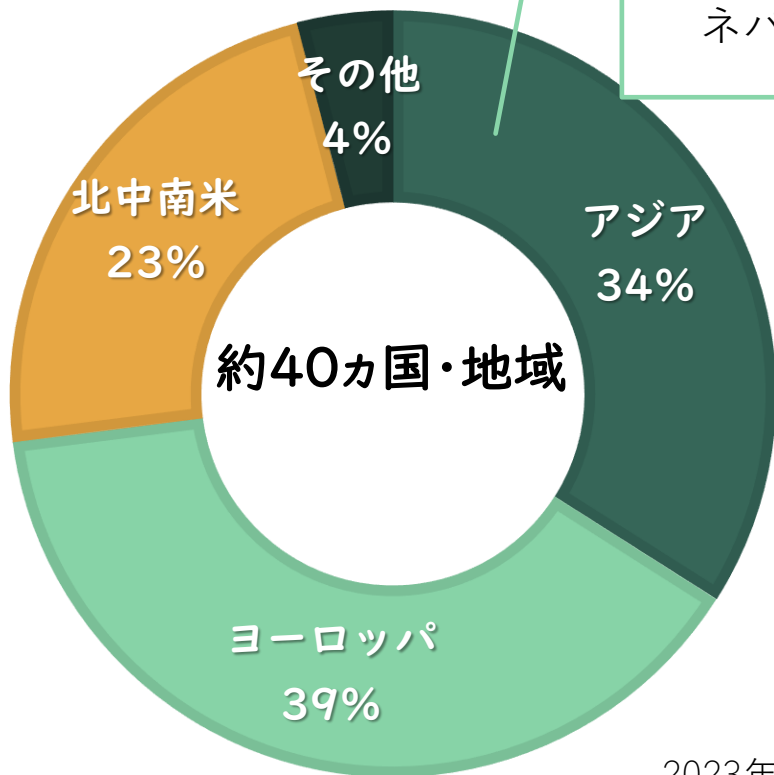


2024年2月24日（土）  
コミュニカ学院 丸山友子



# 学校概要

補足：ベトナム 1  
ミャンマー 1  
バングラデシュ、  
スリランカ、  
ネパールは0

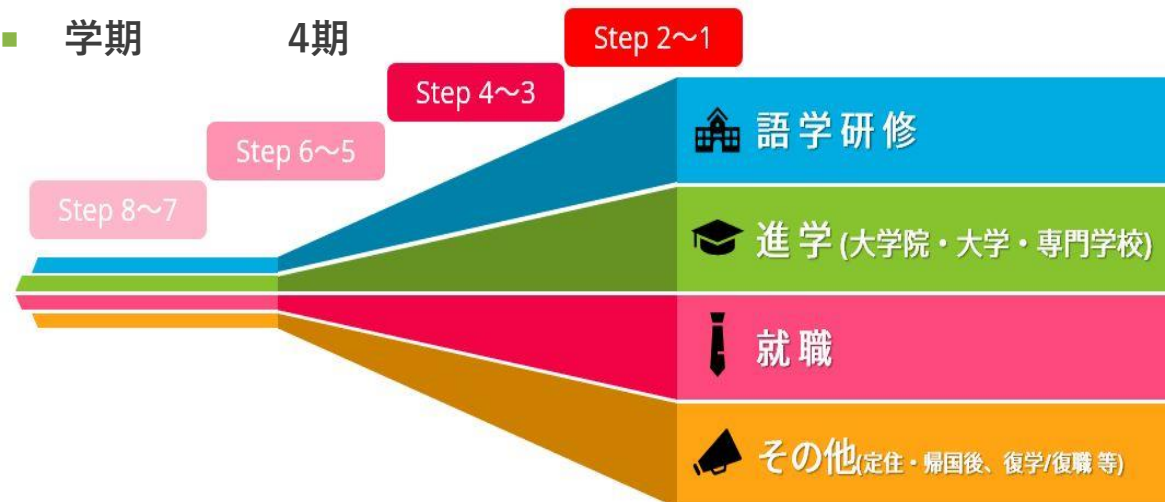


2023年7月時点

- 定員 152名
- 国・地域 約40か国
- 年齢 18歳～60代（平均30歳）
- 学歴 高校、専門課程、短大、大学、大学院

※大卒が一番多い

- コース 総合日本語コース（2年） ※在籍期間は1年程度が多い
- 学期 4期





# 進路 入口と出口の在留資格

## 入口

### ■ 留学

- 短期滞在
- 特定活動（ワーキングホリデー）
- 日本人の配偶者等
- 技術・人文知識・国際業務
- 特定活動（就活：国内大学・大学院卒業者）
- 特定活動（大学院合格者）
- 特定活動（ウクライナ避難民）
- 定住
- 日本国籍

## 出口

- 留学
- 技術・人文知識・国際業務
- 経営・管理
- 特定技能1号
- 教育
- 技能
- 文化活動
- 特定活動（就活） \* 2021年～
- 日本人の配偶者等
- 家族滞在
  
- 特定活動（未来創造人材/J-Find）
- 特定活動（スタートアップビザ）
- 高度専門職1号（高度外国人材）
- 医療

# 進路



2018年度  
進学 29  
就職 17

2020年度  
進学 19  
就職 13

2022年度  
進学 16  
就職 23

2019年度  
進学 22  
就職 14

2021年度  
進学 11  
就職 11

2023年度  
進学 14  
就職 30~40予測

※「就職」に日本人の配偶者等は含まず。主に、技術・人文知識・国際業務+経営管理、教育、特定技能1号  
※修了時期は年4回 6月、9月、12月、3月



## 就職希望者の特徴・傾向

- 日本語レベル : A0～C1
- 就活の期間 : 3か月～2年(1年が多い)
- 地域 : 神戸、大阪を希望はするが、特にこだわりはあまりない
- 専門性 : 文系、理系の中途採用  
専門性を生かしたいという場合もあれば、変更希望の場合もある

自分がやりたいことから逆算。大企業を狙ったりしない。できる仕事、やってみたい仕事優先。  
大卒でも特定技能を選択する場合がある。  
この数年、夫婦やパートナーとの留学が増えてきている。

### 《問題点》

- 留学生といえば大学、新卒の留学生。企業が日本語学校の留学生を知らない
- 時間が足りない
- 特定技能の仕組みの複雑さ
- J L P T の受験機会の少なさ
- 就活をしても帰国に変更する学生は給与や待遇が見合わないと判断。特に理系に顕著



# 就職活動のサポート

## 授業 キャリア系選択授業ビジネス系（日本就職事情） 週1回1コマ（50分）×約9週

- 目的 ・就職に興味を持つ学生が、日本での就活に関する、基礎的な知識を得て、就活を進められる土台を作る。
- 目標 ・自分の計画に従って、自律的に就職活動を進める。

## 授業+α 進路設計ガイダンス、特別授業、ポートフォリオ学習

- 長期目標・短期目標目標の設定・見直し、キャリアデザインなど
- 3か月ごとに希望進路、修了時期の確認

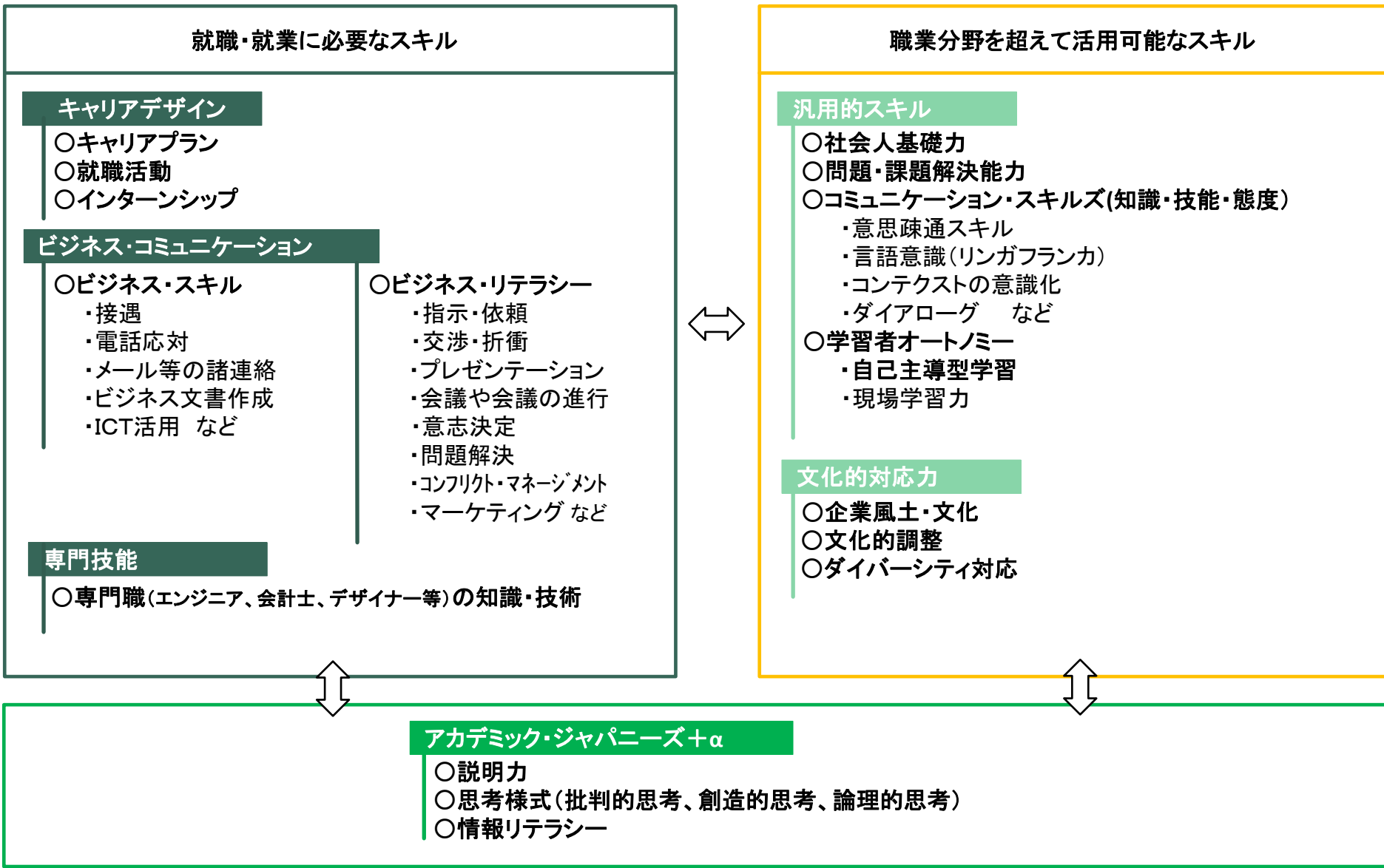
## 授業外 個別指導／CICC（キャリアサポートセンター）

- 個別面談（初回1時間 3～6回程度は対面で実施）
  - \* 学歴、目指す在留資格、修了時期の検討、就活期間、準備物、英語資格の確認
- 履歴書、職務経歴書のチェック フィードバック
- 模擬面接
- 情報収集 [求人情報の検索、セミナー出席、企業との関係づくり]
- 情報発信 [就活用ポータルサイトの構築、説明会や求人情報等の情報発信]
- 心理的サポート
- 担当者間での情報共有
- 在留資格変更手続き [企業に申請経験がない場合は企業へのサポート]

- ✓ 履歴書
- ✓ 合同説明会
- ✓ 面接のマナーと手順
- ✓ メール・電話・手紙のマナー
- ✓ 筆記試験対策
- ✓ 業界、企業研究
- ✓ 就活サイト、ハローワークへの登録
- ✓ 在留資格の知識

授業内では期によってテーマを決めて分割して実施。

# 多様なビジネス日本語教育の領域





就職・就業に必要なスキル

視野を超えて活用可能なスキル

## キャリアデザイン

- キャリアプラン
- 就職活動
- インターンシップ

## ビジネス

教育・相談場面、キャンパス、日常生活等、あらゆる場面で教育・学習が可能  
奥田（2018）



## <教育の方針>

あらゆる場面を教育の場・機会とする

就職・就業のスキル習得は一朝一夕にはできない。  
そのため、あらゆる場面を学習・教育の機会にする必要があると考える。

「郷に入っては郷に従え」のような押しつけの就活サポートをせず、異文化間教育としての日本語教育を行う本校の特色を生かしたサポートを行う。

○国際